

人口転換と家族制度

田中重人 (東北大学文学部准教授)

<http://b.tsigeto.info/311>

近代化につれて死亡率と出生率が下がっていく現象を、「人口転換」と呼びます。人口転換の結果、現在の先進国のほとんどで高齢化と少子化が進み、それにもなって社会制度のさまざまな側面で変革をせまられてきました。この講座では、家族 (=夫婦関係と親子関係で結ばれた人々) に関する制度 (結婚・扶養・教育・相続など) を中心に、私たちが経験しつつある人口転換にともなう社会変動について考えます。

講義のポイント

- (1) この100年間の出生率と死亡率の動向
- (2) 出生と死亡のデータをどう読めばいいか?
- (3) 夫婦間、親子間の権利と義務
- (4) 前近代の家族制度と近代の家族制度
- (5) 出生を規定する要因は、近代化によってどう変わったのか?

1 20世紀日本社会の人口動態

【課題1】配布資料の生命表 (死亡表) と母親年齢別出生率のグラフから、この100年間の変化を読みとってみよう。

- 生活水準の向上と医療・衛生の改善で死亡が減る →長寿化・高齢化
- 出生率低下の原因は?

2 家族制度の変化

家族制度: 夫婦関係と親子関係を定める社会的な約束事と、それに付随する義務と権利

【課題2】現代の日本社会では、次のようなことはどのように決まっているか。また、江戸時代の社会ではどうなっていただろうか?

- 「結婚する」とはどういうことか
- 生まれてきた子供の「親」はどうやって決めているか
- 夫婦間、親子間には、どのような権利と義務があるか
- 誰かが亡くなったあと、その人の財産はどうなるか
- このようなことについて争いがある場合、最終的な結論は誰が出すか

現在の家族制度の特徴:

- 個人主義
- 結婚と親子関係それぞれについて個別に権利義務を規定
- 争い事は家庭裁判所へ (2審以降は通常の裁判と同様)

前近代の家族制度: 「イエ」 (家) を単位とする自治

【課題3】江戸時代の社会と現代の社会の仕組みの対応を考えてみよう

イエ制度とは：

- 世襲制経営体 (家業と家産)
- イエを永続させること、繁栄させることが目標
- そのために、あとつぎと労働力の確保が重要
- 家業が拡大できれば → 分家をつくって同族集団を拡大

3 近代社会のなかの家族

近代社会の特徴：機能分化 (政府、企業、団体、保険……)

近代社会の家族に残ったもの：

- 生活の共同
- 生殖
- 子供・高齢者・病人などの世話と扶養

日本では…

- 20世紀初めごろに都市部で出現
- 高度成長期 (1960年代) までに一般化

少人数の子供を大切に育てる

- あとつぎだからではなく、子供そのものが大切
- 手間とお金をかけなければならない
- 育てる人への見返りは、精神的な満足だけ
- 要求水準はすごく高い
- やろうとする人が少なくなる

4 近代社会の人口問題

人口転換は近代化の必要条件

- 医療・衛生・栄養状態の改善による死亡率低下
- 近代的な家族制度による出生率低下

出生率が下がりすぎると、

- 高齢化にともなう経済的な負担を支えられない
- 長期的にみて、社会そのものが維持できない

近代社会 (の家族制度) は持続可能なのか？

- 育てる人の負担を下げる → 子供を社会全体で育てる仕組みへの転換

ヨーロッパの一部で効果が確認されているだけ。

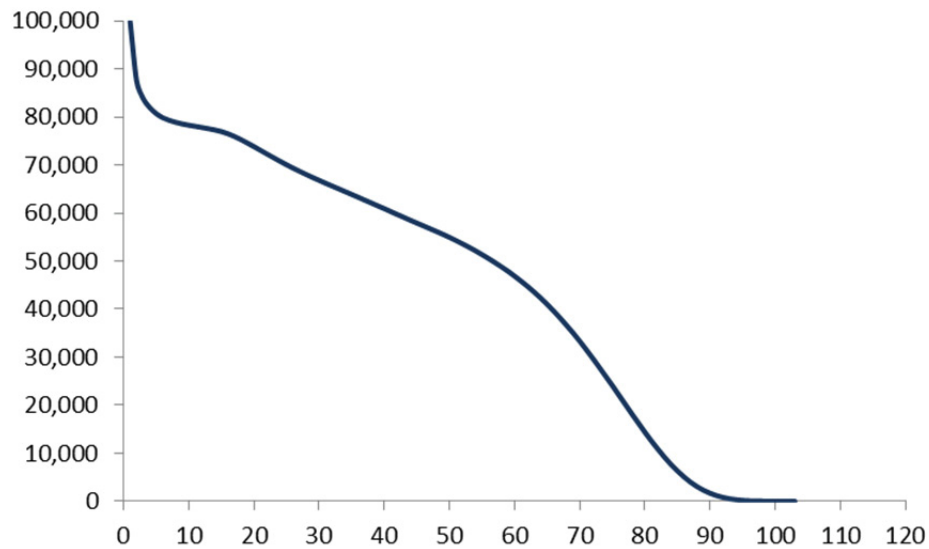
- 普遍的な対策はあるのか？
- 近代社会の次に来るもの

文献

- (1) 京極 高宣 + 高橋 重郷 (編) 『日本の人口減少社会を読み解く：最新データからみる少子高齢化』中央法規出版 (2008年) {ISBN:9784805848210}
- (2) 利谷 信義 『家族の法』(第3版) 有斐閣 (2010年) {ISBN:9784641135567}
- (3) 松信 ひろみ + 島 直子 『近代家族のゆらぎと新しい家族のかたち』八千代出版 (2012年) {ISBN:9784842915678}

資料1 生命表に基づく生存数 (出生時10万人とする)

(a) 1926-1930年

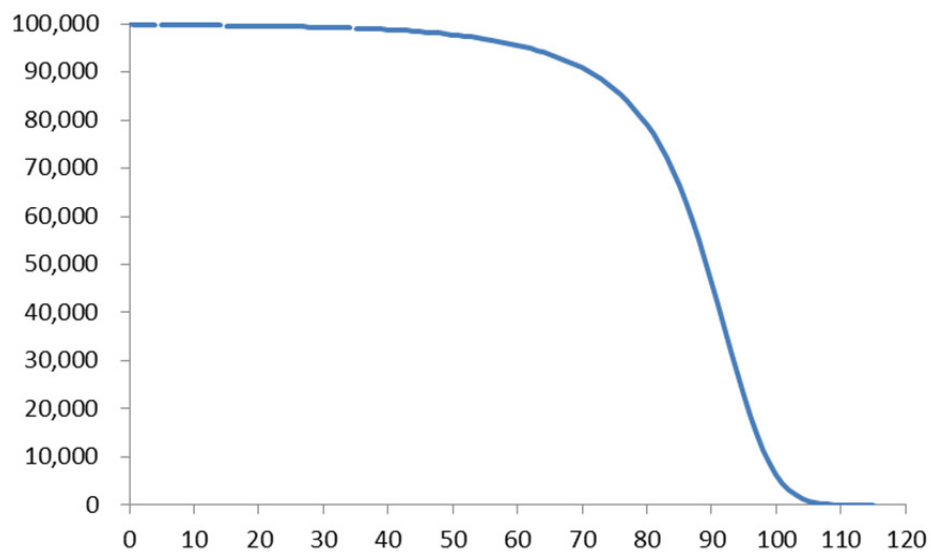


総務省統計局「日本の長期統計系列」第2章「人口・世帯」

表2-35「完全生命表」

<http://www.stat.go.jp/data/chouki/02.htm>

(b) 2010年

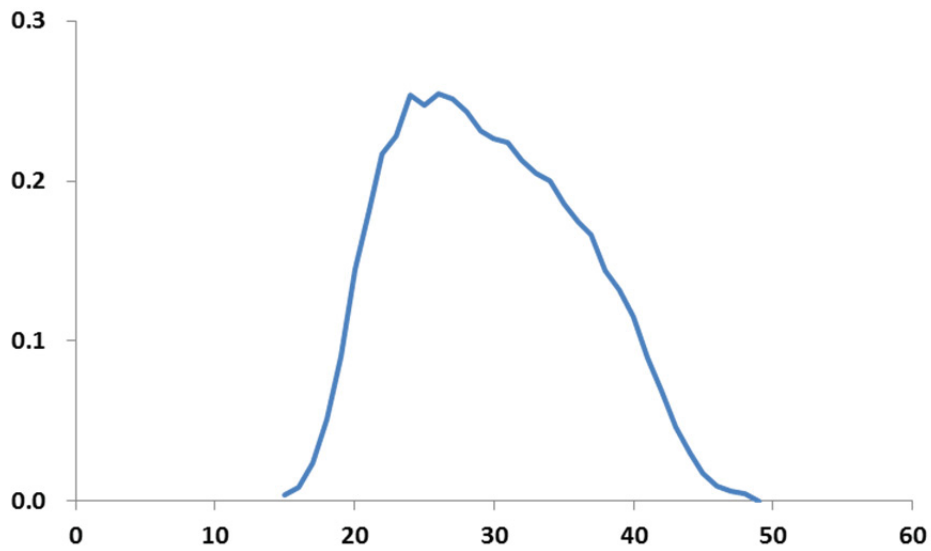


厚生労働省「第21回生命表 (完全生命表)」

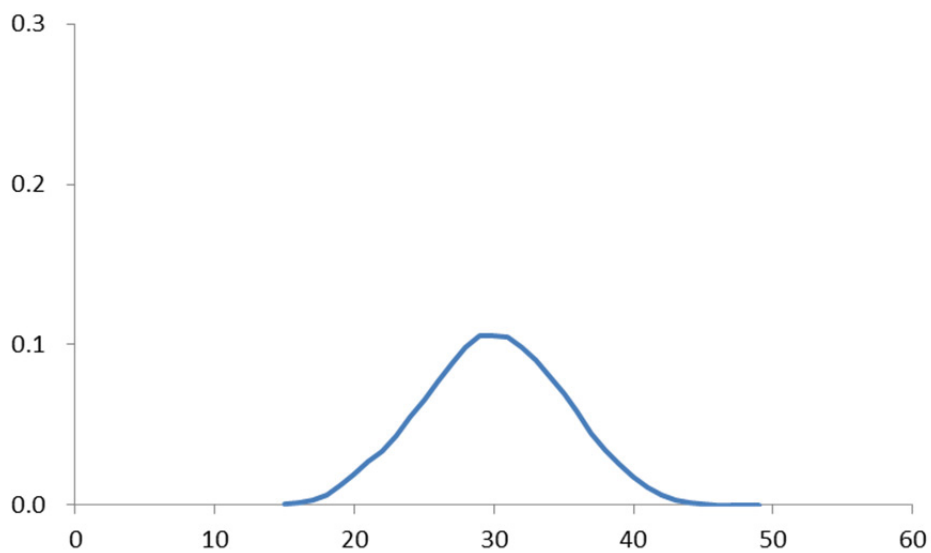
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/21th/>

資料 2 女性年齢別出生率

(a) 1930 年



(b) 2010 年



国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2015年版」

表 4-7 「女性の年齢 (5 歳階級) 別出生数および出生率 : 1925~2013 年」

http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/P_Detail2015.asp?fname=T04-07.htm